

■奈良県吉野郡十津川村



■自治体の概要

村役場所在地：奈良県吉野郡十津川村大字小原 225-1

村の概要：【面積】672 km²（奈良県の5分の1を占める。琵琶湖・淡路島より広く全国で最も広い村）、

【人口】約3,300人

URL：<https://www.vill.totsukawa.lg.jp>



■SDGs 貢献に向けた取り組みの概要

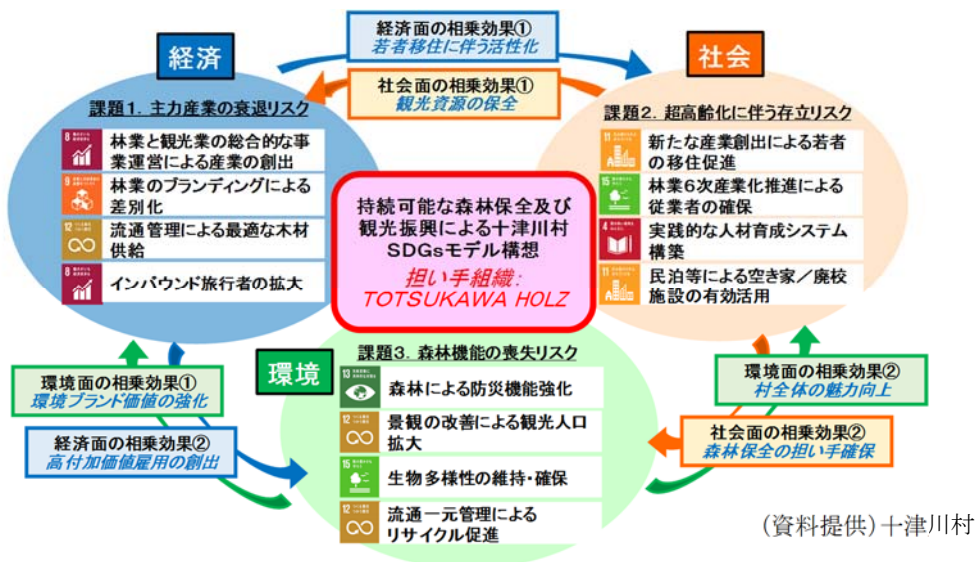
【十津川村の抱える課題と保有するポテンシャル】

- 十津川村は、村の面積の96%が森林で、急峻な地形の緩やかな部分に200以上の集落が点在している。過疎や少子高齢化が進み、2018年4月時点で高齢化率は44%に達する。2040年には人口が約2,300人にまで減少すると見込まれている。
- 村が抱える課題としては、経済面において、森林資源の劣化や不便なアクセス、社会面において、人口減少、空き家・廃校施設の増加、環境面において、災害の多発、獣害被害の増加などがある。
- 一方、村が有するポテンシャルは、「6次産業化の取り組みを強化中の林業」や「歴史・文化・自然に恵まれた観光業」がある。

【持続可能な森林保全及び観光振興によるSDGsモデル構想】

- こうした課題を解決し、持続可能な森林保全や観光振興を通じて、SDGsを達成することを目指している。具体的には、林業と観光業を組み合わせることで産業を創出し、林業のブランディング、インバウンド需要を拡大するなどの方策をとる。また、超高齢化への対応としては、若者の移住促進、6次産業化する林業への従事者の確保・育成などを行う。さらに、森林の機能維持では、防災、景観、生物多様性、流通面で改善を図る。
- こうしたSDGsモデル構想を推進するために必要な担い手組織「TOTSUKAWA HOLZ（十津川の木）」を立ち上げる予定。この組織で、SDGsに関する施策を実行し、将来は一般社団法人化を目指すことで、自立的継続的な好循環を生み出していくことを目指している。

十津川村 SDGs モデル構想の全体像



近畿経済産業局作成 「関西発 SDGs 貢献取組事例集」 2019 年 3 月公表

[関西 SDGs 貢献ビジネスネットワーク] ホームページに掲載

<https://www.kansai.meti.go.jp/2kokusai/SDGS/businessnetwork/businessnetwork.html>